

三中校長だより 保護者地域の皆さんへ
令和5年度 第17号 R6.3.8 (金)



藤井寺市立第三中学校
校長 奥 雅 美

「送別式 歌声の響く学校」

3月4日(月)は3年生の送別式をしました。卒業式は一部の生徒しか出席しないため、1年生から3年生まで全学年が揃うのはこれが最後となりました。拍手で卒業生の入場を迎え、生徒会長の挨拶、そして文化委員からはキャプアートのお披露目がありました。バトンを受け渡す絵に「to the next ⇒」というメッセージが添えられ、「先輩たちのバトンは私たちが引き継ぎます!」と伝えてくれました。遠目で見ると、とてもペットボトルのキャップとは思えないほど上手くグラデーションになっており、素晴らしい出来映えです。

1年生、2年生、部活動代表者からの贈る言葉のあと、1年生からは「大切なもの」の合唱。指揮者が歌いながらみんなを引っ張る様子が、とてもかっこ良かったです。

2年生は「変わらないもの」の合唱。3年生の入場直前に礼のタイミングの打ち合わせがありました。先生が女子と男子それぞれのブロックに短時間で説明、「わかった?」と聞かれたときの、「はいっ!」という返事がとても爽やかに素敵でした。もちろん礼は打ち合わせ通りにでき、安定感のある素晴らしいハーモニーと声量は圧巻でした。

そして最後は3年生からのメッセージと卒業式で歌う「また逢う日まで」の合唱。透き通るような高音、そしてキビキビとした指揮が本当に美しかったです。

何て文化的な学校なんだろうと改めて感じた和やかな会でした。

「身体が覚える」

先日支援学級で、3年生が2年生の時に覚えたダンスを披露してくれました。去年観たときも上手いと思ったのですが、一年も経っているのに、変わらずキレイでした。

また、2年生の体育の授業を観に行ってみると、たまたまソーラン節のビデオが流れ、それにつられて何人かが踊り出していました。小学校の運動会で取り組んだのかもしれませんが。身体が覚えているのでしょう。仕舞いには、「ソーラン、ソーラン」とみんなで声をかけ、盛り上がっていました。

ダンスだけでなく、人が一度身につけたものは一生ものの財産です。生徒たちには日々の学びから自分なりの「できること」を増やして欲しいと思います。

「子どもに身につけさせたい力」

学習塾などを運営する学研が「家庭学習の実態と親の教育観に関する調査2023」を発表しました。調査は小学生の保護者対象でしたが、とても興味深い結果が出ています。

「子どもに身につけさせたい力」で「絶対重要」もしくは「かなり重要」という回答が最も高かったのが、「社会生活に必要な知識やマナー」80.6%、2番目は、「人の意見を受け止めたり、自分の考えを適切に伝える力」78.3%でした。また、前年度と比べて最も増加した項目は「社会の一員として役割を果たし、社会や地域に貢献する姿勢」57.5%(5.7%増)だそうです。社会人に対する価値観がここに表れているように思います。これらは日々人との関わりの中で経験を積み重ねて徐々に身につくものです。テストでいい点をとることよりも優先すべきことがあるという親の願いがわかりました。